

令和2年度 学校評価報告書

小樽市立潮見台小学校  
校長 加藤 広子

1 本年度の重点目標

意欲的に学び 認め合い わかる できる子の育成 【 今年度のキーワード「つなげる」 】

2 自己評価結果・学校関係者評価の概要と今後の改善方策

小樽市教育推進計画の目標	施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
			評価	取組状況	
1 未来を創る力の育成	確かな学力の育成	チャレンジテスト・定着確認テストで未定着だった問題に再度取り組み、正答率を80%以上にする。	A	・未定着だった問題にできるまで取り組ませ、80%以上の正答率を達成できた。 ・達成が難しい児童は、放課後など個別に指導し定着を図るようにした。	A
	特別支援教育の充実	支援を要する児童について、コーディネーターを中心とした校内支援委員会を6回以上開催する。	A	校内支援委員会を定期的に開催し、情報交流を図ると共に、小樽市の教育相談につなげていった。	A
	国際理解教育の充実	児童アンケートを実施し、「英語が楽しい」と回答する児童の割合を80%以上にする。	A	・退職教員等外部人材の活用により、児童が意欲的に授業に取り組んでいる。 ・3学期の児童アンケートにおいて「英語が楽しい」と回答した児童の割合が86%であり、達成できた。	A
	理数教育の充実	算数が「好き」「どちらかと言えば好き」と回答した児童の割合を80%以上にする。	A	児童アンケートにおいて算数が「好き」「どちらかと言えば好き」と回答した児童の割合が88%であり、達成できた。	A
	情報教育の充実	外部講師を招聘した情報モラル教室を2回以上実施する。	A	稲穂小学校 藤平繁範氏を招聘し5・6年生で情報モラル教室を実施した。	A
	キャリア教育の充実	社会科見学や出前授業等を通して、児童の将来に向けての職業観・勤労観を育てる授業を全学年で実施する。	A	公共施設の見学、スーパーマーケット見学やそこで働く人の話を聞きながら、様々な職業について学んだ。	A
改善方策	・チャレンジテスト・定着確認テストで未定着だった問題には、今後ともできるまで取り組ませ、確実な定着を図る。 ・算数のアンケート結果には、学級により偏りがあることから、TT及び、習熟度別学習担当者に対し、授業改善を求めていく。				
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様化時代に対応した教育カリキュラムの充実</li> <li>・コロナ禍であったが、外部からの講師の活用ができた。</li> <li>・標準学力調査では、5年生の算数で正答率が50%以下が多く、課題も指摘されていることから、基礎・基本が身につくよう一層の努力をお願いしたい。</li> <li>・学習見学などがなく、子ども達の様子が目にできず残念だった。</li> </ul>				
2 豊かな心の育成	道徳教育の充実	地域公開参観日や授業参観日等を活用し、全学級が特別の教科道徳の授業を公開する。	A	コロナ禍で地域公開参観日や授業参観日等での授業公開ができなかったが、校内で道徳の授業を参観し合い、授業の充実を図れた。	A
	ふるさと教育の充実	松前神楽や能の体験教室等地域の歴史や伝統文化等を学ぶ活動を1回以上実施する。	A	コロナ禍で松前神楽や能の体験教室等は、中止となったが、3年生で勝納川の学習を実施した。	A
	読書活動の推進	教室に配置されている児童に読みたい20冊について、全て利用する児童の割合を80%以上にする。	A	児童の80%以上が目標を達成した。11月の読書月間では、クラス毎に読書目標を決めて取り組むことができた。	A
	体験活動の推進	潮見台中学校や地域町内会と連携した社会貢献活動を年1回以上実施する。	A	コロナ禍で潮見台中学校や地域町内会と連携した校区内の清掃活動が中止となったが、5年生で地域の公園の清掃を行ったり、児童会で赤い羽根の募金運動を行ったりした。	A
	コミュニケーション能力の育成	言語活動の充実を図る国語科の研究授業を全学級で行う。	A	言語活動の充実を図る国語科の研究を行い、全学級で指導案を作成した研究授業を実施した。	A
	いじめの防止や不登校児童生徒の支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「いのちの学習」を実施した学級の割合を100%にする。</li> <li>・学級経営に「ほっと」を活用する割合を100%にする。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・養護教諭による「いのちの学習」を全学年で実施し、命の大切さや自分や家族、他者を思いやる教育を実施した。</li> <li>・様々なアンケートや調査を行い、その結果を生かした学級経営の交流や反省を学期毎に実施した。</li> </ul>	A
改善方策	・学級経営の交流を踏まえ、学校全体で共通理解を図り、次の学年につなげられるよう学級の安定を図る。				
学校関係者評価委員による意見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域社会との連携を図るため、行事参加や情報交換をこれからも行ってほしい。</li> <li>・地域の交流が難しい中、各学年で心の育成となる教育を工夫して取り組んでいる様子がうかがえた。</li> <li>・読書活動では、「読書好き」と81%の児童が答えているのに対し、保護者は「子どもが読書好き」と56%が答えており、ギャップが大きいので指導が上滑りにならないようにしてほしい。職員評価で不登校対応への意見が多いように、組織的に対応の具体的な指針が必要ではないか。</li> <li>・コロナ禍で精神的に不安定となり、不登校となる子どもはいなかったらどうか。</li> </ul>				

小樽市教育推進計画の目標		施策項目	数値目標	自己評価		学校関係者評価
				評価	取組状況	
3	健やかな体の育成	体力・運動能力の向上	新体力テストを実施した学級の割合を100%にするとともに体力向上改善プランに基づき縄跳び活動の実践を継続する。	A	新体力テストを全学級で1学期に実施した。体力向上改善プランに基づき縄跳び活動の実践を継続している。	A
		食育の推進	栄養教諭による食育の授業を実施した学級の割合を100%にする。	A	栄養教諭による食育の授業を全学級で実施した。	A
		健康教育の充実	外部講師活用による薬物乱用防止教室等を1回以上実施する。	A	小樽警察署の方を招聘し、6年生で薬物乱用防止教室を実施した。	A
改善方策		・スキー学習や外での活動を通して、体力作りを継続する。				
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中一貫教育に基づき、「チーム潮見台」スポーツチーム(野球、サッカー、バドミントン等)を結成し活動する。</li> <li>・コロナ禍だからこそ、免疫力を高める健やかな体作りを重視してほしい。スキーや水泳などの校外活動が縮小しても普段の家庭学習で体力や食事を大切にしよう指導するのも良い。</li> <li>・栄養教諭による食育は、全学級で実施した努力を評価する。今後の継続にも期待している。</li> <li>・外に出られず、体力が落ちていると思われる。そのためか、テレビゲームの時間が増えてたように感じた。</li> </ul>				
4	家庭・地域との連携・協働の推進	家庭教育支援の充実	保護者アンケートで「潮見台小ベリック」について理解し、取り組もうとしていると回答した家庭を80%以上にしている。	A	1学期末の保護者アンケートで、家庭学習に取り組んでいると回答した割合が、90%を越えた。	A
		学校と地域の連携・協働の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域神社で伝承されている松前神楽の出前授業を1回以上実施する。</li> <li>・「樽っ子学校サポート事業」を活用した放課後学習や長期休業中の学習会を行う。</li> </ul>	A	コロナ禍で松前神楽の出前授業が全て中止になったが、「樽っ子学校サポート事業」を活用した放課後学習に参加する1日当たりの児童数が10名以上増えた。	A
改善方策		・家庭学習について、継続的に取り組み、その学年で学ぶことを確実に定着できるよう年間を通して保護者へ啓発を行い、家庭との連携を図る。				
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報過多時代、情報源の選択の良し悪しの判断の基になるのは、各家庭での教え、愛情と考える。</li> <li>・家庭学習の内容がイマイチつかめない。学級便りでお友達の内容などを掲載しているが、内容に不安を感じることもある。</li> <li>・先生方の努力もあって、新型コロナ禍でも家庭と学校との連携が強化されたように感じる。</li> <li>・予定が立たずに大変だったと思うが、学校の現状が見えなかったのも、もう少しスクール情報が欲しかった。</li> </ul>				
5	学びと育ちをつなぐ学校づくりの実現	学校段階間の連携・接続の推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学校間で交流する機会を3回以上行う。</li> <li>・児童による幼稚園における体験授業を実施する。</li> </ul>	A	コロナ禍で児童による幼稚園における体験授業が中止となったが、潮見台中学校との連携で両校の授業参観やスキー学習への乗り入れ授業等を行った。	A
		教育環境の整備・充実	ICTを活用した授業を実施した学級の割合を100%にする。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日全学級でICTを活用した授業を実施している。</li> <li>・2学期に、学級閉鎖中の学級でZoomによるオンライン授業を実施したり、保護者を対象にしたZoom体験会を実施したりした。</li> </ul>	A
		教職員の資質・能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員1回以上の研究会、研修会への参加、環流をする。</li> <li>・校内研究に係り、全学級で研究授業を行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全職員1回以上の研究会、研修会への参加した。全道規模の大会にも参加し環流することができた。</li> <li>・国語科を軸として全学級で指導案作成を伴った研究授業を実施した。</li> </ul>	A
		学校運営の改善	月2回以上の定時退勤日や長期休業中における学校閉庁日を設定する。	A	月2回以上の定時退勤日や長期休業中における学校閉庁日を実施した。	A
		学校安全教育の充実	外部講師活用による交通安全教室や非行防止教室を1回以上行う。	A	交通安全指導員による交通安全教室を低学年で実施した。	A
改善方策		・コロナ禍に対応できる方法として、Zoom等を活用したオンライン保護者会や授業等を取り入れていく。				
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・全ての児童に平等・公平な教育の実践</li> <li>・ZoomやYouTubeを活用して学校から発信する努力がすごく見られた一年だった。</li> <li>・これからコロナ対策に限らず、オンラインを利用する機会が多くなると予想されるので、先生方自身が慣れることが大切である。そのための環境整備と利用機会の拡大を期待する。</li> <li>・安全を考えたとき、今までと違う方法のZoom、オンラインの取り入れを進めていってください。</li> </ul>				
社会教育に関連する目標(目標6～8)		図書館、総合博物館をそれぞれ1回以上利活用する。	A	生活科や社会科等で図書館、総合博物館等を利用した。出前講座も活用した。	A	
改善方策		・出前授業等を積極的に活用していく。				
学校関係者評価委員による意見		<ul style="list-style-type: none"> <li>・文学館、美術館、鉄道記念館等、市の公共施設を活用してほしい。</li> <li>・旧日本銀行、旧日本郵船等、歴史的建造物の活用も考えてみてはどうか。</li> <li>・図書館、博物館はもちろんだが、海上保安部、開発建設部など国の機関、土木現業所などの道の機関など幅広く活用を検討してはどうか。</li> </ul>				